

加藤郁 学位論文審査要旨

主 査 景 山 誠 二
副主査 梅 北 善 久
同 林 一 彦

主論文

Synthetic peptides of Epstein-Barr virus-major envelope glycoprotein-350/220 do not prevent infection in a rabbit Epstein-Barr virus infection model

(Epstein-Barrウイルスの主要なエンベロープ糖蛋白であるgp-350/220の合成ペプチドは、Epstein-Barrウイルスのウサギ感染を完全には予防できない)

(著者：加藤郁、佐野仁志、長田佳子、杉原弘貢、金井亨輔、桑本聡史、加藤雅子、村上一郎、林一彦)

平成24年 Journal of Vaccines & Vaccination 掲載予定

参考論文

1. In vitro Epstein-Barr virus infection model of rabbit lymphocytes from peripheral blood or spleen

(ウサギの脾臓及び末梢血由来リンパ球を用いたin vitroにおけるEBV感染モデル)

(著者：金井亨輔、加藤郁、佐野仁志、長田佳子、奥野啓介、桑本聡史、檜垣裕美、杉原弘貢、加藤雅子、村上一郎、林一彦)

平成22年 Intervirology 54巻 17頁～24頁

2. Lifelong persistent EBV infection of rabbits with EBER1-positive lymphocyte infiltration and mild sublethal hemophagocytosis

(終生EBV感染を維持したウサギはEBER1陽性リンパ球浸潤と非致死性の血球貪食を呈した)

(著者：金井亨輔、高島一昭、奥野啓介、加藤郁、佐野仁志、桑本聡史、檜垣裕美、長田佳子、杉原弘貢、加藤雅子、村上一郎、林一彦)

平成22年 Virus Research 153巻 172頁～178頁

審査結果の要旨

本研究では、B細胞表面抗原CD21と結合すると想定されるEpstein-Barr virus (EBV)の主要なエンベロープ糖蛋白であるgp-350/220の3つの領域に対する合成ペプチドワクチンの効果を、ウサギEBV感染モデルで検定した。これらのペプチドワクチンは、EBV感染の程度を低減させたが、EBVの初感染の予防はできなかった。この結果より、ウサギEBV感染モデルでは、EBVエンベロープ糖蛋白gp-350/220とB細胞CD21との結合による感染経路以外にもEBV感染経路が存在することが示唆された。本論文の内容は、ウイルス感染病理学分野でのEBVの初感染機序の一端を明らかにするとともに、EBVワクチン検定でのウサギEBV感染モデルの有用性を示し、明らかに学術水準を高めたものと認める。